

新年号

ねじりはちまき

## 謹 賀 新 年

旧年は、格別の御高恩に改めて感謝し、謹んで新年の御祝いを申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

今年は年号も新しく、若木が成長して花を咲かせ実をつける。その実の成長を指す「庚(かのえ)」と、新しく誕生するという「子(ね)」の年。それに開放的で、豊かな感受性を象意とする「七赤」の星の年で、誠によい年であるようです。


雨や風などは、少し荒れることはあるようですが、それなりの備えは必要です。全体としては、暖冬気味で梅雨は短く厳しい夏であっても、秋の訪れは意外と速いかも。

しかし「庚」は結実の意なので、収穫物は豊富というそうですね。

この1年、皆様が健康で幸せ多い年でありますよう、心から御祈り申し上げます。

幸田 常一

\*\*\*\*\*



こちら事務所です

本宮市の現場で、住宅修繕工事をさせていただいております。水害による復旧工事です。

天皇即位、台風19号、社内組織変更、、、。  
目まぐるしく過ぎた1年でした。

それでも人は前進していくことに一生懸命でした。社内の人間も黙々と前を見据えて動いているようでした。

目標を達成して、また新しい目標に向かって前進。

挫折してもじっと目をつむって、1歩前進。

この先も、この繰り返しなんだろうなあと思う。

何が起こるかわからないこの先でも、身の回りの温もりに守られながら、半歩でも1歩でも進んで行こうと、この季節になると考えます。

皆様にとっても最良の年となりますように、、  
本年もよろしくお願ひいたします。

取締役会長 幸田 一二



新年明けましておめでとうございます。

始めに、台風19号の水害により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

昨年はお客様との縁もあり、数多くの仕事を頂きありがとうございました。大変充実していた日々であったと思います。

また年号が令和になり、消費税が10%になり、代表取締役になり、と新しいこと尽くして、あっという間に月日が過ぎたと感じています。

今年の干支は、子年です。ねずみというと、天井裏を駆け回り、壁に穴を開けて侵入し、食料を食べたりと嫌悪感がありますが、子年は新しい物事や運気のサイクルの始まる年になるといわれています。

私共も、新しい工法・資格等を積極的に取り入れ勉強し、お客様の要望を叶えるよう努めていくと共に、水害で被災されて住宅の復旧を待たれているお客様につきましては、1日も早く元の生活がスタート出来ますよう工事を進めていきますので、今年も1年よろしくお願ひいたします。

代表取締役 渡邊 正勝

昨年もお世話になりました。

毎年思うのですが、どんどん1年が早く過ぎ去ってしまうような気がします。今年で私は幸田建設に入って15年目を数えまして、学生の頃がずっと昔のことに感じ、随分と長い間皆様にお世話になっているのだなと思う反面、入社してからの日々があっという間に過ぎてきたような気がします。

昨年は未曾有の水害が発生しまして、未だ復興が追い付かずに不自由な生活を強いられている方もいらっしゃると思います。

大変申し訳なく思っております。

今後も出来得る限りの早期復興に努めていきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

本年もよろしくお願いいたします。専務取締役 鈴木 信義

☆☆

謹んで年始のご挨拶を申し上げます。

昨年の災禍を改めてお見舞い申し上げます。

復旧復興のために、頑張られている最中かと思いますが、お身体に気を付けてお過ごし下さい。

本年もよろしくお願いいたします。

佐藤 美穂

\*\*\*\*\*

昨年は大変お世話になりました。

只今、読書にはまっています。今年は昨年よりも多くの本を読みたいと思っています。

引き続き、ご指導のほどよろしくお願いいたします。笑顔で頑張ります。

渡邊 正吾

新年明けましておめでとうございます。  
旧年中は大変お世話になりまして、ありがとうございました。  
本年もご期待にかなうよう、努力する所存ですので、よろしく  
お願いいたします。

國分 務

\*\*\*\*\*

明けましておめでとうございます。  
昨年は大変お世話になりました。  
本年もよろしくお願いいたします。

スノーボードが趣味なので、正月休みは山に行ってきます。

佐藤 朋彦

\*\*\*\*\*

明けましておめでとうございます。  
昨年中は大変お世話になりました。  
昨年の水害で22年分のお便りすべてを失ってしまい、本当にショックでした。  
毎月寄稿してくださっている方々にも、申し訳ないことをしました。  
また1からスタートしよう。そして、1年、5年、10年、続けられるように頑張ってい  
こうと思います。 気持ちを引き締めてまた新しい年頑張ってみます。

幸田 久美

\*\*\*\*\*

令和2年1月5日 発行  
有限会社 幸田建設  
＜発行責任者＞幸田久美  
〒969-1204  
本宮市糠沢字八幡1-1  
電話0243-44-3816

＜後記＞  
今年は1/6(月)からスタートさせて  
いただきます。  
皆様にとって、素晴らしい1年であり  
ますよう、お祈り申し上げます。  
(事務員k)

新しい年を迎えるに当たり「地球の歴史と持続可能性」というテーマを取り上げてみたい。これは大きなテーマなので、小生の手には負えるものではないが挑戦をしたい。そこで焦点を絞る必要がある。では、今回はどういう問題意識で臨むのか。「持続可能性」と言う言葉からすると、それは「地球環境問題」に行き着く。地球誕生して46億年、それが産業革命から240年で「地球温暖化」対策が喫緊の課題とされている。そういう中で、「地球の持続可能性」が論じられているのである。SDGs（持続可能な開発目標）というのもしばしば目にする。では何故「持続可能性」というのが盛んに論じられるのであろうか。それは「このままいくと地球はもたなくなる恐れあり」という危機意識からである。危機迫ると言っても、ここ20年～30年の話ではないが、100年単位で見たら大変なことになるだろうということだ。完全に今の世代は生きていないわけだから、どれだけ後の世代のことを考えられるかが問われているのだ。そういう意味では難しいといえれば難しいテーマではある。しかし、決して疎かに出来ないテーマである。それだけに「足元」から「自分」から「何が」できるかというのが見つからないと「自分には関係ない」ことにしてしまいがちだ。でも、それで終わりにはしたくない。こういうことを頭に置きながら、そろそろと筆を進めていきたいが、どんな展開になるものだろうか。

よくよく考えてみると、地球の歴史は46億年というとてつもない永い歳月の歩みだ。その中で、人類の歴史は二足歩行のラミダス猿人が登場して440万年であり、ホモサピエンスという新人が登場して20万年、農耕牧畜が始まってからが1万年とごく短い。ましては産業革命が起こってからはわずか240年位しか経っていない。このように人類の歴史は地球の歴史の分厚いページのごく一部を占めるにすぎない。人類の登場の前に鉱物、微生物、植物、動物が登場する45億9千万年以上の永い歴史があり、人類登場の舞台を準備してくれていたのだ。そこで、地球上の生命誕生の歩みを概観しよう。地球は誕生してから5億年ほどで海と陸地が形成され、この海が生命誕生に大きな役割を果たすことになる。まず、原始生命（アミノ酸やタンパク質を材料とする）の誕生である。宇宙からの放射線が届かない深海で誕生したと考えられる。39億年前のことだ。その後、バクテリアと呼ばれる原核生物（DNAをむき出しのまま抱える生物）が登場し、しばらくはバクテリアの世界が形成される。そして22億年前になると、真核生物（膜で包まれた核や、様々な細胞内器官を持つ。現生物の細胞に同じ）が登場し、海の中でゆっくりと多細胞生物（12億年前）に進化していく。植物であれば、細胞内に光合成を担う葉緑体を持つ。21億年前には大気中に酸素も増えてくる。この間地球は火山活動を繰り返す、大陸の形成・移動が進行し、巨大隕石の衝突があったりして、多くの生命が絶滅している（4.4億年前、3.5億年前、2.5億年前には大量絶滅）。7億年前には地球全体が厚い氷に覆われた時期もあった。やがて生物にとって画期的なことが起こる。それは酸素が増えたことによって、大気圏にオゾン層がつけられたのだ。6億年前のことである。オゾン層は生命に有害な紫外線をさえぎってくれる、つまり生物が海から陸へ上がるための環境をつくってくれたのである。動植物の陸上への進出は、生命の誕生以来大きな飛躍をもたらす出来事であった。特に植物は光合成のために太陽の光を求めたのだ。実際生物が上陸するのは、植物では湿地体に先ず藻類や苔類が、動物では両生類がトップを切ったようで、それは3.6億年前のことである。この時期の前後に魚類の登場、昆虫の登場、爬虫類の登場、ゴキブリの登場と続くが、2億年前になっていよいよ哺乳類が登場する。実は哺乳類の前に恐竜が登場し、1億6千万年に亘って地球を支配していたのだが、6500万年前に巨大天体の衝突で地球全体の気候が急変し、恐竜たちが絶滅してしまったとのことである。その後、恐竜に変わって哺乳類が繁栄を迎えることになる（6000年前）。そして最後に700万年前に猿人が登

場し、前に触れたとおり、人類の歴史が始まるのだ。恐竜との関連でひと言。恐竜が栄えるには食料が必須であるが、2億1000年～1億4000年前の頃には気候も暖かく、シダやソテツの植物が繁茂し、植物食が可能であった（一部肉食のものもいたが）。

ここまで地球の永い歴史を概観したが、なぜこんなことをしたのか。それは人間の生存にとって必要不可欠な自然という舞台を、いかに永い年月を掛けて地球が用意してくれたかをみるためである。まさしく共存の関係にある自然をここ2~300年という短期間で、地下資源である化石燃料を多消費することで、過剰な温室効果ガスを排出して地球環境のバランスが崩れて、地球温暖化が進行しているのだ。これが文明の進歩、人間の進歩と称していいものだろうか。疑問である。地球温暖化は大いなる自然破壊で、人間は自分の手で自分の首を絞めるが如く、自ら生存を危うくしているのではないか。そのことに一刻も早く気づいて、人間至上主義あるいは人間中心主義の考えを捨て、自然との共生関係を真剣に問い直すべき時期にきていると言える。世界的なコンセンサス形成が急務だ。

そこで、目指すべきは「持続可能性」ということになる。地球が、自然が「持続可能」とはどういうことか。もちろん将来に向かってである。その将来に向かって、今何をすれば持続が可能となるかである。いろんな意見があると思う。ここでは余り学術的にこだわらずにいきたい。先ず「持続可能」であるためには、持続を不可能にしている要因を取り除けば良い。取り除くだけでなく、それに代わる新たなものを創出する。その時どういう点に着目するのか。地球温暖化を抑止し、地球を持続可能とするには、先ず温暖化の要因を成す温室効果ガス排出を削減する一方、光合成をしてくれる森林資源の適正保存に努め、さらに生物多様性や水資源を保全する必要がある。エネルギー面では石炭火力発電を削減し、再生可能エネルギーを拡大しなければならない。また、ガソリン車に変わって電気自動車や燃料電池車を普及させねばならない。付け加えれば、エネルギー多消費の文明のあり方を見直さなければならない。また、地球の持続可能のためには、資源面で見れば、大量生産・大量消費・大量廃棄のあり方を見直し、使い捨てではなく、極力リサイクルすべきであり、石油製品（プラスチック）のように埋め立て処分しかできないものは素材として極力使わないことにするなど、やるべきことはまだまだある。

地球の持続可能性を論ずるというのは、つまるところ地球の自然をバランス崩すことなく、どう維持するかなのだ。それによって人間の生存基盤も維持される。人間は自然の一部であることをもっと認識して選択行動すべきである。空気(酸素)、水、太陽光、土、植物、動物、微生物なくしては生きていけない。地球の持続可能性のためには、文明のあり方として反自然的なものは取り止め、自然の在り様からもっと学ぶ必要があると思う。それはどういう点かという点、一つは自然のものを素材として使うよう見直すこと、イノベーションに当たり動植物の機構・機能の不思議からもっと学ぶべきこと、もう一つは自然の循環性や再生可能性に見習うということだ。これらが大事だと思う。最近大手外食チェーンでプラスチック製品に代わって木や紙製品を使うところが出てきたとか、大手企業では再生可能エネルギーで自給を目指すところが出てきたとか、宅配業者で車を電気自動車に切り替えるところが出てきたとか、石炭火力発電所建設には融資しない方針の銀行が出てきたとか、様々な動きが出てきていることは誠に心強い。

自然界に学ぶべきヒントがまだまだある。中途半端になったが、次の機会にまた。

## 飛越国境・加越国境の名峰（その2）

10月21日～24日に飛越国境の2山を、11月2日～5日に加越国境の3山をいずれも富山側から登った。

今回は10月に登った山を（その1）として掲載し、今回は11月に登った山を（その2）として掲載します。 飛騨：岐阜、越中：富山、加賀：石川

### 【日程の概要】

（その1）10月21日（月）～24日（木） 飛越国境の白木峰(断念)、金剛堂山、人形山

（その2）11月2日（土）	移動	車中泊
3日（日）	加越国境の大笠山	車中泊
4日（月）	同上 大門山	車中泊
5日（火）	同上 医王山	帰宅

### 【今回登った山の概要】

（百は日本百名山、◎は日本二百名山、○は日本三百名山）

- 4 大笠山 （○おおがさやま 1822m、深田久弥が百名山に入れたかった山）
- 5 大門山 （○だいもんざん 1572m、加賀富士）
- 6 医王山 （○いおうぜん、 939m、薬草の山）

### 11月2日（土）

11時自宅発。10月21日に通った北陸道をひたすら富山を目指す。名谷立浜PAで富山のNさんに「明日大笠山に登る予定」とのメールを送る。小矢部砺波（おやべとなみ）JCTから東海北陸道に入り五箇山（ごかやま）ICに16時過ぎに着く、約450km。

駐車場で一休みしメールを見ると、Nさんから「大笠山同行OK」とのメールが入っていた。翌日登山口に6時に集合することとした。

境川・桂湖左岸のビジターセンターを目指し、途中、道の駅上平ささら館のある西赤尾集落のGSで燃料を補給し道順を確認する。親切に「世界遺産五箇山のまっぷ」により説明してくれた。地元の商店で食料を補給し、ビジターセンター管理棟に17時前着。閉館の準備をしていた気さくなちよびひげのお兄さんがいて登山道の状況や車中泊する場所などを教えて貰う。オートキャンプ場には何台かのキャンピングカーが泊まっていた。火気はオートキャンプ場以外は使用禁止でキャンプ場は有料とのこと。しかし、18時以降は誰もいなくなるとのこと。暗黙の了解を得たと勝手に解釈して、トイレのある管理棟の駐車場で車中泊することにする。

ビジターセンターの営業は11月4日で終了し、11日にはゲートも閉鎖される

とのこと。11/2-3 はギリギリだったことになる。

20 時頃就寝。

#### 【4 大笠山】

3 日 (日)

5 時起床、天気は大丈夫のようだ、青空が広がっている。お湯を沸かし朝食を摂り、準備をする。6 時前、見覚えのある N さんの車着。登山口に近い駐車場まで車を移動する。大坂、岐阜、石川、富山の車が止まっていて、宮城ナンバーの車もあった。

6:30 出発。桂湖に沿って 10 分ほど歩き車道から離れ、草の生えた登山口に着く。桂湖の真ん中を岐阜県と富山県の境界線が通っているらしい。登山口は富山県だ。

すぐに鉄製の頑丈な吊り橋を渡ると、正面に鉄製の長短 5 本のハシゴがかかっている、N さんが先行してよじ登る。初っぱなからいきなりパンチを食らったようだ。先が思いやられる。クサリを頼りにフカバラ尾根に取り付く。尾根も急登が続くが 1 時間ほど歩いて休憩。天気の良いのに感謝する。葉の落ちた木々の先に紅葉した山々が見えている。

「桂湖 1.6 キロ・大笠山 4.6 キロ」の標識を過ぎるとブナ林になり少し勾配が緩やかになった。「桂湖 2.6 キロ・大笠山 3.6 キロ」の標識を越えて前笈ヶ岳 (まへおいずるがたけ) に 8:55 着。結構速いペースだ。N さんに付いていくのがやっとだ。

前笈ヶ岳には三角点があり標石に「前笈ヶ岳 (天ノ又) 1552.1m 環境庁・富山県」とある。前笈ヶ岳は大笠山の前衛峰であって、笈ヶ岳 (◎おいずるがたけ 1841m、石川・富山・岐阜の 3 県境) とは別の山なのになぜに前笈ヶ岳という名前なのか不思議だった。

前笈ヶ岳から先は大笠山の山頂が見えなくなり、白山 (百、2702m) をバックに笈ヶ岳の特徴あるピークが間近に見えてきて、あたかも笈ヶ岳に向って登っているように感じられ、前笈ヶ岳の名称に納得する。笈ヶ岳の山容には登高意欲が刺激される。

いったん下り、9:30 アカモノの頂 (1552m) に立つと、真っ正面間近に菅笠を被った大笠山の巨大な山頂部が見えてきた。尾根道に出ると大笠山から北の方角に連なる山々が見えてきた。翌日に登ろうとしている大門山の連なりと思われた。

「桂湖 4.8 キロ・大笠山 1.4 キロ」の標識を過ぎると旧避難小屋跡に 10:10 着。下山途中の人が 2 人休んでいた。ホースで引き水されている。10 分ほど休む。

ロープのある急登を登っていくと平らな主稜線に至り、「大笠山 0.2 km」の標識があり、小さな新避難小屋の脇を通過して 11:03 山頂に着く。約 4 時間半の道



のりだった。

山頂でNさんがお湯を沸かし味噌汁を作っていると、中年の男女のペアと単独行の若者、単独行の70歳位の男性（三百名山を目指す宮城県の人。Mさんとする。）、がやって来てそれぞれ食事を始めた。次に40代から70代初めの熟年の5人グループが賑やかにやって来て、先着の人たちに断った上で、万歳を三唱した。

聞くと、石川県能美市の人たちで、かねて念願だったブナオ峠からの縦走・大笠山登頂ができて良かったと興奮して話していた。（\*）

（\*）車を2台用意し、あらかじめ1台を桂湖の登山口（下山口）に置き、大門山登山口のブナオ峠を朝4時にヘッドランプを点けてスタートし、赤摩木古山（あかまつこやま）、見越山、奈良岳を縦走して、7時間30分を要して大笠山山頂にたどり着いたとのこと。（桂湖の登山口からフカバラ尾根の登山道が開かれるまでは、大笠山にはブナオ峠から登るしかなかったとのこと。）

明日自分が登ろうとしている大門山から縦走してきたとのことで、興味深く聞いた。

Nさんから味噌汁やかまぼこなどをごちそうになり美味しかった。十分休養し、12時下山にかかる。Mさんは既にスタートしていた。

往路を戻るが急な道では何度か転ぶ。Mさんに途中で追いつき休んでいるときに三百名山の話聞いたが自分よりも進んでいて残り30(?)くらいとのことだった。（\*）

（\*）夏道がなく、一般的には登山が残雪期に限定される山、飛騨の猿ヶ馬場山（○さるがばばやま1875m）や北海道日高山脈のカムイエクウチカウシ山（◎1979m略称カムエク）にMさんは既に登っていて、ガイドさんが案内する登山ツアーに参加したとのこと。カムエクは5月の連休に雪上2泊のテント泊で料金は7~8万円位要したことなど。（もちろん登山口までの交通費などは個人負担）

最後に鉄製の長短5本のハシゴを慎重に下り、吊り橋を渡り、15:55 駐車場着。下り約4時間、山頂等での休憩を含み計9時間半の山行を無事終える。

さすがに疲れた。

明日から仕事のNさんと、来年の白木峰を一緒に登ることを約束し別れる。16:15、翌日登る大門山の登山口に向けて出発する。途中道の駅と地元の商店で缶ビールや食料を求め、10km先のブナオ峠を目指す。舗装はされているが一車線の曲がりくねった急坂の道で脱輪に注意しながらゆっくりと進み、行き止まりのブナオ峠登山口駐車場（990m）に17:35着。ブナ林に囲まれていて薄暗くなっていた。10台くらい置ける少し傾斜のある草の生えた駐車場にはワゴ

ン車と普通車が駐まっていた。食事をしながら空を見上げると雲がゆっくりと流れているが星が見えていて安心する。

ライトを点けて1台の乗用車がやって来たら、大笠山山頂で万歳を唱えていた能美市の5人のグループの人たちだった。互いの山行の健闘を讃え合う。2台に分乗して帰って行った。 20時頃就寝。

## 【5 大門山】

4日(月)

朝方、車に当たるブナの木々から落ちる雨しずくの音で目を覚ます。窓には黄や紅の濡れ落葉が張り付いている。弱い雨が降っている。

6時起床、車内でパンを食べ様子を見ることにする。大門山のみを登るとすると参考コースタイムが登り1時間10分なので、雨が降っていても登るつもりだ。車に当たる雨しずくの音がしだいに小さくなってくる。

外に出てみると濃霧になっている。携帯もラジオもダメなので天気予報も分からない。ブナの木々に覆われて狭い空がしだいに明るくなってくる。シュラフに体半分入れているとエンジンをかけなくても寒くはない。

7時前、ワゴン車が1台と乗用車が1台やって来て、中年の男性一人、カラフルな服装の女性4人のグループが準備を始めた。自分も準備をする。

話したら、大門山の先の奈良岳(1644.3m)まで行きたいとのこと。一緒にどうですかと誘われたので同行することにする。

7:30 出発。最後尾に付いていく。

白山国立公園に含まれているので標識やコースは良く整備されている。落葉の重なった緩やかな道を登っていく。濡れているので坂のところでは滑りやすい。1時間10分で大門山への分岐に付き休憩する。熊の爪痕の付いた木を教えて貰う。山頂には15分くらいで行けるが、大門山には皆は何度も登っているので奈良岳まで行って引き返し、最後に天候によって大門山に登るとのこと。自分の目的は大門山なので、最初に登ってから付録として先まで行きかけたが、皆に合わせて先に進むことにする。

しだいに晴れてきて左側足元に桂湖を見ながら気持ちの良い稜線を歩く。30分ほどで赤摩木古山(あかまっこやま 1501m)山頂着。見晴らしが良く紅葉の山々がきれいだ。方位盤と黒御影の山頂標識がある。

先に進むと階段の一気に下りで樹林帯のナタメ平を通る。登り下りを繰り返して岩の道になり階段を登りきると見越山(みこしやま 1621m)山頂に着く。狭い山頂だ。

段々皆と打ち解けてきているいろんな話をする。富山市の人たちで今回初めて一緒に登る人もいるとのこと。うち二人の中年女性は40歳を越えているがトライ

アスロンやマラソンなどもやっている人たちで、確かに後続の、自分を含めて4人と距離を開けて先頭を登って行くと思った。

ここからガレた道を下り歩きにくいネマガリタケの稜線を登る。11時奈良岳山頂(1644.3m)着。正面間近に大笠山が見えるが雲が流れていてその全容を見ることはできなかった。前日に能美市の5人が目指した奈良岳から大笠山に至る登山道も見えている。

中年のご夫婦は湯を沸かし、麺をゆでてさらにとろろ昆布を入れてコップフル満杯の麺料理を作った。隣の自分にも分けてくれてごちそうになった。富山の人たちはとろろ昆布をいろんな料理に使うとのこと。おにぎりに混ぜ込んだり、お弁当、何にでも入れて食べるとのこと。

小一時間も休憩し、それぞれの山行の話、トライアスロンやマラソンへの挑戦、まだ登ったことがないという東北の山の話も出た。磐梯山と安達太良山は誰でも知っている。尾瀬には福島側からも行けるということは知らない。山上でのみんなとの山談義は楽しかった。一人でない山行はやはり楽しいことを再認識した。

往路を戻り、見越山、赤摩木古山、大門山分岐を経て、目的の大門山山頂に14:17着。天候に恵まれ、同行させて貰った富山の人たちのおかげで目的が達成できた。

1時間ちょっとで登山口のブナオ峠に着き、別れを惜しんだ。マラソン挑戦の女性から、冷えたぶどうとチョコレートをいただいた。

皆を送り出したら向かいの山から草刈機械と鎌を持った熟年の男性二人と女性一人が降りてきた。地元の山岳会の人たちで、大門山と反対側の山の登山道を整備してきたとのこと。福島から来たと話したら、いろいろとブナオ峠のこととか「塩硝の道」(\*)のことを説明してくれた。翌日医王山に登ると話したら、車中泊できる温泉がある道の駅のことを教えてくれた。

(\*) 塩硝の道: 藩政期に加賀藩が幕府に隠れて生産した煙硝を五箇山からブナオ峠を通り金沢へ運んだ道。

車中で食べたぶどうとチョコレートが冷たくて美味しかった。

教えて貰った福光医王山(ふくみついおうぜん)温泉“ぬく森の郷”を目指す。五箇山ICから福光ICを経由して福光市街地を抜け石川県境に近い“ぬく森の郷”に着いたのは19時近かった。まずは温泉に入り2泊2山の汗を流す。大きな露天風呂もあり込んでいた。

スッキリした。車中泊できるか聞いたが、不可で近くの道の駅の駐車場を教えて貰った。道の駅の敷地内には寺院のような建造物があり説明板には、「中国物産館」で中国紹興市との交流拠点とのこと。

停車位置を定め食事をすることにした。持参の食料も尽きたので近くの「8番

ら一めん」店に入る。通常、夜には米などの炭水化物を食べないようにしているが、山登りの栄養補給という名目で麺の他に餃子も頼み、明日の登山口とルートを検討する。医王山は里山なので富山・石川の両県からたくさんのルートがあり、起点をどこにしたらよいか迷ってしまう。今回は初めてなので宿泊場所から近い富山県側の国見ヒュッテを起点とする。コンビニで明日の食料を調達し、道の駅に戻る。医王山のスカイラインがきれいだ。たくさんの星が輝いている。

21 時頃就寝。

## 【6 医王山】

5 日 (火)

6 時半起床、道の駅を 7 時発。道路の案内標識を頼りに車を進める。狭い山間の道路は昔(?)からの道のように「百万石道路」の標識があり、雰囲気のある道だった。

7:25 国見ヒュッテ着、空が開けていて暖かく気持ちが良い。建物は閉まっている。「国見」と名が付いているとおりに東側に砺波平野とその奥の山並み、さらに遠くに剣岳などの北アルプスの山々が霞んで見えている。

千葉ナンバーの車には若者がいて食事をしていた。ルートのことを聞くと、初めてでよく分からないがスマホの登山アプリ「YAMAP」を使って奥医王山まで行って引き返すとのこと。スマホを見ながら歩いて行った。

お湯を沸かして、ワントンスープと缶詰、おにぎりで朝食を済まし、舗装路を登って行くと、堂辻(どうつじ)の標識と立派な案内図があり、右の山道に入っていく。初めはほぼ水平の道だったが金山峠からは急な下りとなり文字通りの「梯子坂(はしごさか)」だった。

下りきった沢にはきれいな水が流れていた。「三蛇ヶ滝(さんじゃがたき)」の案内標識があったがどこなのかは分からなかった。沢を渡った分岐から「カニの横ばい」になり、ところどころ水が染み出ている大きな岩をクサリを使いながらヨコ移動していく。右足元はるか下方に沢が流れていて、滑落すれば沢に落ちることになる。標高 939m の低山にこういう難所があることに少し驚き、嬉しくなってしまう。鳶(とんび)岩の登り口に着き、斜度 45 度、高さ 100m の岸壁は迫力があり、少し休んで登れるかどうか検討した。引き返すのも嫌なのでチャレンジすることにした。クサリは新しい感じでしっかりしていて斜めタテに筋が入って入る柱状節理の岩は手がかり、足がかりもあり怖くはない。下は見ないようにして着実に登っていく。20 分くらいで頂上直下に着く。空に突き出ている頂上には登る気がしないで休んでパンをかじっていたら、次に登ってきた同年配の熟年の人があっさりと頂上に登り一息ついていた。

降りてきて話したら、金沢の人(以下、Kさんとする。)で石川県側から登って

きたとのこと。医王山は50回以上登っていて雪のない時期はルートを変えて週に2~3回来るときもあるとのこと。足場がしっかりしているから大丈夫と励まされて、引き下がれなくなり挑戦することにした。慎重に手と足を運び頂上に到達できた。平場があるわけではないので立つことはできない。岩に掴まって顔を突き出して岩陰の下部を覗いたら大沼が見えた。高度感、スリル満点の岩だった。長居せずに降りた。Kさんは山頂（奥医王山）までは行かないが途中までは行くとのことなので、付いて行くことにした。

ルートはいろいろあり、Kさんのいつものルートを案内して貰った。時々すれ違う熟年の登山者とは顔見知りで、いつもだいたい同じ時刻に出合うとのこと。立ち話をして時候を述べ合う。近所の公園を散歩している感じだ。80歳くらいのグループとも出合った。コースによっては駐車場から近いコースもあるのだろう。

11:35 白兀山（しらはげやま 896m）山頂着。地藏尊と鉄製の展望台があり砺波平野は見たが能登半島や北アルプスは薄い雲のおかげで良く見えなかった。ベンチで休憩しKさんから小さな羊羹を貰って食べる。

奥医王山に向って出発する。緩やかなアップダウンの道を行くが先行の彼が脇道に入って入った。聞くとKさんの知り合いがマイ登山道を作っているのだという。手作りの案内標識などがあり、少し開けたビューポイントには腰が下ろせるベンチのような物もある。一山越えたらまた元の正規の登山道に復した。

マイ登山道とは恐れ入った。里山は恐ろしいと思うときがある。開拓した人には良いかも知れないが、良く山を知らない人にとっては、ガス、雨、雪、などの時に迷ってしまう場合が予想されるので怖い。

菱広峠（ひしひろとうげ=夕霧峠）に下り、ここに車を置いていたKさんと別れる。医王山の核心部を案内して貰いありがたかった。

夕霧峠にはコンクリート製の休憩舎がありスキー場のリフト乗り場もある。

反対側の小さな鳥居をくぐって擬木の階段を上る。階段は300段以上あった。途中、見返りの大杉からは金沢平野と砺波平野の両方が見渡せた。階段を上りきったところからはなだらかな尾根歩きとなり、いったん下がった所の左奥に紅葉に囲まれた神秘的な竜神池があった。

少し登り、12:50 医王山の最高峰、奥医王山山頂 939mに着いた。山頂広場には中年のペアと大きなカメラを持った若者が一人いた。周囲は樹木が育って眺望は良くないが展望台からは遠くの白山、剣・立山連峰、槍・穂高連峰がなんとか同定できた。20分ほど休み下山、夕霧峠 13:30。そこからは紅葉を楽しみながら車道を歩き、14:10、スタート地点の国見ヒュッテに着く。

15時発、昨夜車中泊した福光の道の駅で買い物し、切り昆布と五箇山の三笑楽の原酒を買い 15:45 発、一路、福光 IC から東海北陸道、北陸道、磐越道、東

北道を經由し、自宅 21:46 着。往復 950 km 超の山旅を無事終える。  
今回は玄関のライトも点き、鍵も開いていた。

令和 2 年 1 月 NO 87 アンチ・エイジング 山旅遊人

---

## 元旦の計

昨年の山行 1 月 本宮市・大玉村境 名倉山初日の出  
神奈川県 箱根山  
2 月 磐梯山  
3 月 新潟県 米山(山頂踏まず)  
4 月 ー  
5 月 福島・栃木県境 男鹿岳(山頂踏まず)  
6 月 ー  
7 月 新潟・福島県境 浅草岳。新潟県 守門岳  
8 月 ー  
9 月 新潟県 杵差岳  
新潟県 荒沢岳  
10 月 飛越国境 白木峰(山頂踏まず)、金剛堂山、人形山  
11 月 加越国境 大笠山、大門山、医王山  
12 月 ー

○ゴシック体、太字が昨年新たに登った三百名山(二百名山を含む)で 8 つにとどまった。

○一度も山に行かなかった月があり、安定的な山行ができなかった。

○今年は、山行以外では自分を取り巻く状況に大きな変化はない。

○九州と四国の山行は終わり、東北 6 県・新潟県では佐渡ヶ島の金北山を残すのみ。残っているのはアルプス周辺の山、関西・中国地方、北海道など遠方の山がほとんど。

○令和 2 年の目標

- ・車で行けるアルプス周辺の山を重点的に山行すること。資料は収集済。
- ・北海道の山、16 山の資料を集め、山行計画を練ること。
- ・体力保持のため、近郊の山に登ること、スポーツジムでの有酸素運動と筋トレに励むこと。

○1 月 1 日現在、残っている山 63 山 (暫定：一部不確かな山あり)

以 上